



発行所

一般社団法人 全日本木材市場連盟
編集・発行人 小合信也
東京都文京区後楽1-7-12
〒112-0004 林友ビル6階
電話 03(3818)2906
FAX 03(3818)2907
毎月1回1日発行
定価・年3,000円
(会員は会費に含まれています。)

令和2年度第4回木材需給会議(最終回)

林野庁は、令和3年3月25日(木曜日)に「令和2年度第4回木材需給会議」を開催し、「主要木材の需給見通し(令和3年第2四半期及び第3四半期)」をとりまとめ、公表した。また、木材需給会議及び「主要木材の需給見通し」は今回をもって終了とのこと。単なる実績数値の羅列だけでなく、委員を務められた専門家の詳細な分析と、今後の3期分の四半期見込み・見通しは、当たるかどうかは別にして、業界関係者にとっても、貴重な情報源であったことから、終了が惜しまれる。

主要木材の需給見通し(令和3年第2四半期及び第3四半期)について

見通しの要点

1. 令和3年第2四半期(4~6月)の需給は、製材用国産材丸太、合板用国産材丸太、輸入丸太、国内製造合板は前年同期比で増加し、輸入製材品、輸入合板、国内製造構造用集成材、輸入構造用集成材は前年同期比で減少する見通しとなっている。
2. 令和3年第3四半期(7~9月)の

主要木材の入荷量等の概要

(単位:千m³、%) (括弧内は前年比又は前年同期比)

Table with columns for Domestic Roundwood, Imported Roundwood, Plywood, and Structural Laminated Wood, with sub-columns for Domestic Production and Imports. Rows include 29-year actuals, 30-year actuals, and various quarterly and annual forecasts.

資料:「主要木材の需給見通し」

需給は、製材用国産材丸太、合板用国産材丸太、輸入丸太、国内製造合板、輸入合板、国内製造構造用集成材は前年同期比で増加し、輸入製材品、輸入構造用集成材は前年同期比で減少する見通しとなっている。

II 令和2年度第4回木材需給会議資料の概要(抄)
1. 一般経済の動向
昨年の緊急事態宣言の解除後、新型コロナウイルスの感染拡大防止に配慮しつつ、経済活動の再開が進められ、景気は秋まで緩やかな持ち直しが続いたが、コロナの感染再拡大を受けて年末にかけて減速感強まり、今年1月の緊急事態宣言の再発出後は、個人消費を中心に一時的に停滞する懸念高まる。2020年10~12月期の実質GDP成長率(2次速報)は前期比+2.8%(年率換算+11.7%)と高い伸びも、それが感染拡大や

緊急事態宣言の再発出につながったと考えられ、1~3月期の実質GDP成長率は前期比△1.0%(年率換算△3.9%)とマイナスに陥る見込み。目先の景気拡大を優先し、感染拡大防止と経済活動のバランスが崩れ、景気を悪化させた。徹底的に需要を抑え込んだ前回の緊急事態宣言時と比べ景気の落ち込みは緩やかにとどまる見込み、緊急事態宣言の解除が部分的に可能になるなど、足元で感染の勢いは鈍っている。このまま感染を抑制できれば、春先のイベント需要を取り込むことが可能となり、景気が二番底に陥る事態は回避できる。ワクチン接種が進むことで世の中のムードが好転することもプラス材料。今後、緊急事態宣言の解除やGoToキャンペーンの再開のタイミングによっては再び感染者が増加し、景気低迷が続くリスク。昨年の失敗の教訓を活かし、感染拡大防止と経済活動再開のバランスを取り戻せるかが、今後の景気の最大のポイント。2021年度は、感染拡大による経済活動への制約が徐々に薄らぎ、5Gの本格的普及が進むこと、世界経済の回復が続くことなどを背景に、景気の持ち直しは維持される。年度での実質GDP成長率は、2020年度の前年比△4.8%に対し同+3.7%と、プラス成長復帰と予測。感染拡大防止に配慮し経済活動再開のペースは緩やかとなるが、プラス基調維持され、年度末にはコロナ感染拡大前の水準(2019年10~12月期)を回復する見込み。東京オリパラは、大会規模や観客数は縮小余儀なくされる見込み、イベント効果はそれほど大きくならない。

2022年度も景気回復続き、年度での実質GDP成長率は前年比+1.2%と潜在成長率を上回る伸びが維持される。景気の持ち直しとともに労働需給が徐々にタイト化してくるが、コロナの感染拡大の下で、自宅でのテレワークの推進や業務のリモート化をはじめ各種の試みが急速に浸透した結果、通信環境などのインフラ整備、AIなど新技術の普及、働き方改革の推進とも相まって、労働力人口の増加、余暇の創出、副業・兼業の広がりなどにつながり、労働生産性を向上させ、潜在成長力の底上げを促すと期待。

**2. 住宅着工見通し**

住宅着工戸数は、コロナの影響が強まった2020年4月以降、全体では年率80万戸前後で推移。持家は2020年4月のコロナ対応の緊急事態宣言を受け、営業自粛や住宅展示場への来店者数の減少等により受注が減少し、住宅着工戸数にも影響し、2020年6月以降、緩やかに増加。2020年4月から11月の住宅着工戸数累計は、全体で2019年同時期比△9.4%のマイナス。持家、貸家、分譲一戸建て減少、分譲マンションで僅かに減少も、持家はマイナス幅が縮小。2020年10-12月期のGDP1次速報に基づく、シンクタンクの予測によれば、2020年度の住宅着工戸数は、80.4万戸、2021年度は平均80.8万戸、2022年度は82.9万戸で、着工の回復は緩やかと考えられる。

**3. 木質バイオマスの動向**

2020年度第3四半期のバイオマス発電所の燃料調達量は、対前年同期比3%減。前期比全体の調達量は14%減、

未利用木質区分は26%減。前々期、前期において、製材用材等に入荷制限に伴う需要減が発生する中、燃料材が受け皿となり、調達量が大幅に増加も、製材用材等需要が回復してきたことが影響したと想定。一般木質区分は前期落ち込んだ海外チップ、ペレットが回復。2020年度第1-3四半期を通じた燃料調達量の内訳は、未利用木質のほとんどは針葉樹、一般木質及び農産物残渣は、海外ペレット・チップやPKSの比率高い。燃料材価格の推移は未利用木質の針葉樹チップ価格及び一般木質の針葉樹チップ価格は横ばい。これらの価格推移には地域差があり、四半期ごとの増減は短期的な動きにとどまる可能性に留意。未利用木質バイオマス発電所の導入容量は増加し、容量ベースで導入済みは約76%。今後も稼働を開始する発電所が控えており、燃料材の需要は海外燃料を中心に拡大すると想定。

**4. 木材輸出の動向**

2020年の輸出数量は丸太は138万4千m<sup>3</sup>で前年比22.5%増、製材は17万5千m<sup>3</sup>で16.8%増、合板は10万7千m<sup>3</sup>で7.8%減。輸出総額は、357億円、前年比3.2%増。国別は、中国が170億円(7.0%増)で輸出総額の47.7%を占め、第2位フィリピン65億円(12.7%減)、第3位米国38億円(40.9%増)、第4位韓国30億円(3.2%増)で、米国が第3位になった。2021年1月の輸出数量は、前年同月比丸太38.7%、製品等60.6%、合板11.6%の増と好調。中国はコロナ等の影響により昨年前半の輸出量減少が大

も、6月以降、2019年を大幅に上回るペースで輸出量が増加。米国は住宅着工が高水準で継続し、日本からのスキフエンス材の輸出も好調に推移。

**5. 国産材丸太(製材用)の需要動向**

2020年第4四半期実績は米材中心に輸入製品の品薄や価格上昇等の影響ある中、国産材製材は堅調推移、原木供給は昨年度初めからの中国向輸出停止、合板工場等受け入れ制限等による荷余り感から全体的に需要減少、中国向輸出再開や7月の九州豪雨等により一転、原木不足が本格化し、前期比大幅増も、前年同期比減。原木価格上昇と製品価格への反映に時間差があり、価格転嫁が十分にできない状況。2021年第1四半期の原木供給は増産傾向にあり、不足感は解消に向かう見込み。輸入材の入荷減、価格上昇による国産材への転換の動きは当面続くと予想、前期比増の見込み。前年同期比減も、減少の幅は小さくなる見込み。例年季節的に需要が高まる時期も、今後の需要側の2020年決算の動向を見据え、新規受注の見通しについて注視必要。第2四半期以降、引き続き外材供給タイトであれば、国産材供給量に影響を受けると考えられ、外材からの代替による需要増見込むも、引き続きコロナの影響による需要減に相殺され、前期比並とし、コロナの影響を大きく受けた前年同期比増となる見通し。旺盛な米国の住宅需要等による米材等の輸入減や価格上昇は国産材需要に少なからず影響を与え、横架材、2x4ランバー等について、国産材への転換の動きも見えてきたが、今後、本格的に代替が進むには、安定的な生産

体制やサプライチェーンの構築、JAS認定等について一層の努力が求められる。

**6. 国産材丸太(合板用)の需要動向**

2020年第4四半期実績は第1-3四半期の間、各メーカーがコロナの影響により1-3割減産し需給調整を行ったが、秋口以降の需要増加により減産緩和し、前期比大幅増、前年同期比減も、平年ペースに戻りつつある。2021年第1四半期はコロナの影響も緩和されつつある中、在庫減少する一方で受注上向き、メーカーの減産体制も緩和、前期比増、前年同期比微減見込み。第2四半期以降は前期と同様の要因で上向き傾向、前期比並、前年同期比増加の見通し、輸入合板の減少傾向、違法伐採対策等の環境問題の影響拡大、需要側の南洋材離れの傾向続き、国産合板にとり上向き傾向が続くと見込む。

**7. 米材、欧州材、北洋材、輸入集成材の供給動向**

(1) 米材製材品の供給 2020年第4四半期実績は日本及び米国の木材需要増加も、収益性の高い北米内供給が優先され、日本向け供給量減少、前期比増も前年同期比減。2021年第1四半期は国内過小在庫により需要高まる一方、米マツでは昨年末で日本向けの大手サプライヤー社が収益低下により日本向けから撤退し、米ツガ、SPF等の他商品についても収益性の高い北米市場を優先し、日本向けオフアールは減少見込み、前期比、前年同期比とも減の見込み。第2四半期は更なる在庫量低下により国内需要が増加し価格も大幅に上昇と見込む

も、収益性の高い北米向けを優先する供給避けられず、需要に見合った供給は見込めないと予想、前年同期比で減、第3四半期は前年同期の要因により、需要に見合う入港見込めない、前年第2四半期の入港量が集中した反動に伴い入港量が大きく減少した前年同期と比べれば増加見通し。

(2) 欧州材製材品の供給 2020年第4四半期実績はラミナ等ではコロナの影響による需要低迷の影響、羽柄材等完成品では前年夏の在庫過多による発注量の調整により、入荷量減、前期比、前年同期比とも減。2021年第1四半期の国内需要は前期に比べ増も、価格競争力が劣る日本向け製品の供給の確保ができず、前期比増も、前年同期比減の見込み。

第2四半期は北米に加え中国も欧州製材品購入増加させ、総需要増加と予想、日本向け製材品の価格競争力の低さから、日本向けオフアール数量が増えるとは考えにくく、前期程度の水準で横ばいと予想し、前年同期比減、第3四半期は国内で供給減による在庫のタイト感から引き続き需要多いものの、北米、中国等の需要も引き続き旺盛であると予想、現地の夏休みによる生産減少の影響もあり、日本向け供給は増えず、低水準で推移し前期比微減、前年同期比減と見通す。

(3) 北洋材製材品の供給 2020年第4四半期実績は前年夏の在庫過多による仕入れ調整で入荷量はかなり低水準、前期比、前年同期比とも減。2021年第1四半期は原木出材増により生産量自体は増えるも、中国の需要増の影響により日本向けのオフアールは増加せず、前期

比増も、前年同期比減の見込み。第2四半期は中国等における木材需要の増加を背景に価格上昇し、日本向けも需要増により価格高騰も、他国と比べ競争力に欠け、入港量は大きく増加せず、前年同期比減、前年同期は入港量高い水準で推移し、在庫過多になり需要減の原因となったが、今年に入荷量減少する見通し、第3四半期は日本市場では過小在庫により需要高まり、中国等他国からの需要も高く、総需要は増加見通し、一方で現地では丸太の出材が季節的要因で減少する時期で、日本向け供給量は大きく増えない。需要に見合う入荷は期待できないが、相場下落の局面で入港量が激減した前年同期と比べれば増加見通し。

(4) 輸入構造用集成材の供給 2020年第4四半期実績は昨年夏の国内在庫過多に伴う発注調整の影響により、前期比、前年同期比とも減。2021年第1四半期は現地工場の多くが日本向け専用ラインでの生産で他国の市況の影響を受けにくく、日本の需要増加に合わせた入荷量となり、前期比増も、前年同期比減少見込み。第2四半期は当期入港分の需要は前期と横ばい、供給もそれに見合う量を予想、昨年は秋口の需要増を見越した発注増から入荷量が増えていたため前年同期比減、第3四半期の国内需要は増加傾向となる一方、日本向け価格が他国向け価格との競争力低下により、日本向け専用ラインにおいても生産数量調整進み、供給は減少と予想、前期比、前年同期比とも減の見通し。昨年はRW集成材の入荷多かつたが、他国向けのRWの需要高まり、特に集束梁の入荷減少する見

通し。

8. 南洋材製材品の需要

2020年第4四半期実績はコロナの影響により商業施設の新規出店・改修案件激減し、イベント関係も中止が相次ぐなど荷動きは低調、前期比微増も前年同期比減。2021年第1四半期は引き続きコロナの影響の下、需要環境に変化見られず、前期比並低位で推移するも、前年同期比増の見込み。第2四半期は新年度に入り需要を期待できる時期も、各企業において流通在庫を減らすと予想、前期比微増も、前年同期比減、第3四半期は首都圏を中心に非住宅など遅れていた物件が徐々に動き出し、需要が回復傾向に向かうと予想、前年同期比増と見通す。

9. 国産、輸入合板の需要動向

(1) 国内製造合板の需要 2020年第4四半期実績は12月は価格値戻浸透、仮需含む流通側在庫等手当増加し発注に對し出荷待ちが発生、生産に對し需要が大きく製造在庫は大幅減、前期比大幅増、前年同期比減少もマイナ幅減少傾向。2021年第1四半期は12月に底値が出、実需裏付けのプレカットと流通の在庫手当が活発となるも供給側は雇用調整助成金があり、無理な増産は見込めない。西日本の納期遅延は続き、特に一部プレカット工場の住宅会社向け加工分等は満足する仕入れに至っていないところもあり、前年同期比並の見通し。第2四半期はワクチン接種が順調に進むなど新型コロナウイルスの影響が緩和に向かうと仮定し、今年度の住宅着工数を81万戸水準と予想、緊急事態宣言下で大きく落ち込んだ前年同期比では増、第3四半期はコ

ロナの影響が緩和に向かい、供給側の生産増え、オリ・パラ後の建築需要の回復が期待される、一方で労働者不足、木材供給不足、原材料のコスト上昇のマイナ要素も顕在化し、これら要因を差し引いても上向き傾向と予想、前期比、前年同期比とも増加見通し。

(2) 輸入合板の需要 2020年第4四半期実績は前期の大幅な供給減による港頭在庫の減少で品不足アイテムが増加し、流通側在庫等の手当中心に回復した結果、輸入量を上回る需要(出荷)となり、前期比増も、前年同期比大幅減。2021年第1四半期は現地でのコロナ防疫対応のための移動制限による生産労働者不足、世界的なコンテナ不足及び海上運賃上昇により、オーダーを決めても順調な入荷にならない状況続き、需要も供給見合いの水準、前期比微増、前年同期比減と見込む。第2四半期はコロナの影響が緩和に向かうと仮定し、今年度の住宅着工数を81万戸水準と予想も、昨年からコロナ禍1年間における調達不安定感から代替品へ移行する動きも考慮し、一段と低い水準になると予想、前年同期比減、第3四半期は輸入事業者が現地の供給体制の不確実性から確信の持てる仕入れ手当できず、先物買いの決断に苦慮している状況、需要も同様に先物引合いは目立たず横ばいの水準、コロナの影響により現地の供給体制崩れ、供給・需給とも大幅に減少した前年同期比では増となる見通し。

10. 国内製造合板の供給

2020年第4四半期実績は第1〜3四半期の間、各メーカーがコロナの影響

により1〜3割減産し需給調整を行い、秋口以降の需要増加によって減産を緩和し、前期比大幅増、前年同期比減も平年ペースに戻りつつある。2021年第1四半期はコロナの影響が緩和されつつある中、在庫減少する一方受注が上向き、メーカーの減産体制も緩和、前年同期比微減の見込み。第2四半期は前年同期要因に加え、GWの各メーカーの休業による影響見込まれ、横ばい推移、前年同期比増、第3四半期は前々期と同様要因に加えコロナの影響から脱し平年並みの供給と予想し、前年同期比増の見込み。

**11. 国内製造構造用集成材の供給動向**

2020年第4四半期実績はコロナの影響による住宅の着工減等の影響続く中、前期比微増も、消費税増税の駆込需要があった前年同期比大幅減。2021年第1四半期は引き続きコロナの影響が続く、前期比微増も、前年同期比減の見込み。第2四半期は米国における需給逼迫のあり等を受け、欧州産ラミナが値上がりし、国産製品価格も当面強含みで進行も、コロナの影響はあるも、比較的旺盛な住宅需要により生産量増加傾向で推移、前期より増加し前年同期比微減、第3四半期は前期と同様要因により前期より増加し前年同期比15%程度増の見込み。

**■国産材中央需給情報連絡協議会臨時情報交換会**

林野庁は、令和3年4月14日、中央需給情報連絡協議会臨時情報交換会を開催した。

今回の会議は、新型コロナウイルス、フレイト

高騰、為替円安、コンテナ不足及び米国・中国の需要増と日本の買入等により、ほぼ全ての輸入材供給のひっ迫・タイト化というこれまでに見られない状況を受けて急遽開催されたもの。出席者は、林業、木材及び住宅まで広範な分野の団体の代表。概要のポイントは以下のとおり。

・ 今般の輸入材製品の価格急騰と供給不足に伴う国産材製品の代替需要の高まりについて、関係者から現状と見通しに関する情報が共有された。  
 ・ 当面は現在の状況が続くと見方が強い中、輸入材の供給リスクに鑑み国産材へのシフトを指しているには、引き続き川上から川下までの関係者が現状把握と情報共有を行うとともに、中長期的な視点から業界一体となった対応が必要との意見が出された。  
 なお、議事次第及び配付資料・林野庁ウェブサイトの以下URLに掲載  
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusam/ryutsu/kyougika.html>

**■令和2年度全市連会長賞受賞者決まる**

令和2年度の会長賞受賞者は、全市連表彰委員会において、審査。決定され受賞者は、以下のとおり。

- 1 市場関係 (33名) 「関東北」大井川大輔 (株) 平木材市場、福田義信 (同)、佐藤重明 (株) ミトモク、越雲真利 (株) 金平、今井貴之 (千葉県木材市場 (協))、
- 「関東」柳田昌 (柳田木材 (株))、遠藤勝政 (東京中央木材市場 (株))、葛西守文 (同)、後藤靖子 (ナイス (株)) 横浜

- 市場)、細井浩明 (同 小牧市場)、皆木和子 (同)、渡辺修一 (同 岡山市場)、笹山欣吾 (同 福岡市場)、「東海」谷岡正教 (西垣林業 (株))、「四国」今川孝子 (株) ゲンボク、平岡純一 (株) 久万木材市場、「九州」植山龍太 (株) 伊万里木材市場、前田裕介 (同)、村上直樹 (株) 長崎県北木材市場、秋吉陸夫 (熊本木材 (株))、梅田恭央 (同)、江崎泰生 (同 八代支店)、武田一也 (同)、溝辺幸則 (同 上球磨支店) 吉田義栄 (同)、吉富幸人 (同 九木センター)、渡邊照司 (同)、大弓洋司 (肥後木材 (株))、大瀬隆一 (同 人吉支店)、後藤浩二 (株) 日田中央木材市場、中島博 (同)、百田洋次 (同)、吉田由里子 (同)
- 2 問屋関係 (2名) 勝矢吉雄 (材惣木 (株))、柴田将喜 (株) フジモク

**■林野庁春の人事異動 (2)**

- ・ (農林水産政策研究所長) ↑浅川京子 (庁次長) ↑織田央 (庁国有林野部長) ↑橋政行 (庁計画課長) ↑関口高士 (庁経企課長) ・ (道局次長) ↑川脇多久男 (道局総企部長) ↑吉永俊郎 (保険センター審議役) ・ (庁森林集積推進室長) ↑川村竜哉 (高知県部長) ・ (近中局次長) ↑中村道人 (整備センター関東整備局長) ・ (庁監査室長) ↑斎藤哲 (庁国有林野総合利用推進室長) ↑井口真輝 (九州局計画保全全部長) ↑山根則彦 (庁保護対策室長) ↑増田義昭 (山梨県技監) ・ (近中局総企部長) ↑川上伸一 (徳島署長) ・ (中部局総企部長) ↑廣田祐一 (庁管理官) ・ (九州局総企部長) ↑岩井広樹 (庁管理官)

**雑記帳**

奈良県吉野は、国内有数の古くからの林業地で三大美林の一つ。密植と集約的施業で、通直、目詰まり、節の少ない優良材生産で有名。吉野地域の林業経営には、昔から京・大阪の資本が入っていると言われる。江戸時代に、吉野の林業経営に京・大阪等の資本が投入されたのは、理由がある。江戸時代、当時も消費地であった江戸(四斗樽で年間百万樽程度の酒消費量)に、酒作りの先進地関西方面から樽に入った酒が、樽廻船等によって運ばれた(上方からの下りものは結構で、下らないものは宜しくないと言われた)。その樽製造のためのスギ材、樽丸は、防漏のため材の中方向に白線帯という心材と辺材の境の部分が通っていることが望ましく、歩留まりが悪かった(おおよそ1割程度?) (こともあって原木需要量は膨大で、その原材料確保のために、京阪神の酒製造業者等が吉野周辺での林業経営に乗り出したそう。樽丸適材、通直で、目が詰まり、節の少ない丸太を目的として育林体系が整えられたのだろう。時代は移り、日本酒の容器も、樽から瓶に変わり、樽丸の需要も激減した。しかしながら、樽丸用材に替わり、樽丸適材の特性を活かし、「現し」の真壁軸組建築の柱適材等として、構造材としての強度とその材面の端正な美しさによって高い評価を得ることになった。日本人の好きな用の美の事例の一つでもあるのか。吉野の美林は日本酒の生産・流通の拡大によって形成されたといつて過言でなく、日本酒の効用は思いの外、大きいようだ。